

医療法人北斗会 さわ病院

木原はる奈 村上悟 楠本重信 澤温

さわ病院は精神障害者および認知症高齢者の地域医療にこれまでも努めてきた。しかし相談内容やニーズが多様化し、サービスになかなか結びつかないときがある。今回はそのような事例を取り上げ、期待されるサービスについて考察し、新たに始めた取り組みを紹介したい。

介護保険サービスなどの各種サービスがあっても事例 A さん（転落事故による頭部外傷後遺症からくる認知症患者）がサービスにつながらない理由の第一は、施設が慢性的に満床だったり、急な要請に応えられないという「サービスの不足」である。第二は、A さんの障害特性に対し施設が受入れに消極的であったことである。第 3 は、利用できるサービスがあっても、妻が第三者にうまく頼りきれず結局自らが介護を負担してしまう現状である。そこで当院は、妻が選択しやすいサービスは何かを考え以下の取り組みを始めた。

『サポートセンター Du』設立へ

ピアヘルパー（ホームヘルパー 2 級の資格を持ち一定の訓練を終了した精神障害者）を組織化し『サポートセンター Du』と名づけた。以前からもスポット的に同様の活動はしていたが、より組織的、効率的なサービス提供ができ、介護保険法や精神保健福祉法などでは対応できないニーズに応えられ、また障害者の就労支援やセルフエスティーム向上などにも役立つ。介護を第三者に委ねられない家族のニーズと、働きたい精神障害者のニーズが一致してできあがった組織とも言えよう。今後も、既存のサービスに加えてこのような谷間を埋めるサービスを使って、高齢者や障害者の地域生活を支えていきたい。